

福祉フォーラム委員からの言葉

山田 容 (本学社会学部准教授)

子ども虐待への対応をはじめ、福祉現場の皆さんは苦悩しつつも日々困難な業務に取り組まれています。その熱意と実践のなかで支えられている家庭、利用者は少なくありません。しかし常に権利擁護や安全確保という重い使命を抱え、潤沢とは言えない支援環境において、支援者は疲弊した孤立しがちです。今回の専門セミナーは、きっかけづくりとしての意図もありましたが、今後も、支援者の連携と協働を深めていくことを福祉フォーラムの役割として考えていきたいと思っています。

西川 淑子 (本学社会学部教授)

会員の皆様のご協力を得て、今年度の活動も盛大に果たすことが出来たことにお礼申し上げます。さて、2016年度の現代福祉学科の開設に伴い、福祉フォーラムも進化が求められています。今までの活動の成果と課題を検証して、新しい一歩を始めたいものです。ところで、福祉現場のみならずボランティアな社会活動の場において、龍大の卒業生が多数活躍されています。そうした方々との協働、連携も是非実現したいと願っています。

岡野 英一 (本学社会学部教授)

今、産業構造の変化とともに、社会のカタチが大きく変わってきました。はたらく(社会に貢献する)、くらす(人のつながりや憩い)、やすむ(睡眠や休息)が、それぞれに違うカタチ(時間・空間)になっています。それが格差や貧困、排除や孤立を深めていく要因ともなっています。だからこそ、多様な個人が共生し、連帯して生きる社会づくりのビジョンを持ち、広める福祉フォーラムの価値は、龍谷大学の建学の精神のもと、いま、輝いています。

村田 智美 (本学社会学部講師)

様々な形で豊かさを求めることの出来る時代、貧困問題、特に子どもの貧困がクローズアップされたことに世間は少なからずの衝撃を受けました。福祉課題に取り組む基礎となる力はその課題に多くの人々が関心を寄せ、自分事として捉えることに始まるのだと思います。そして活動の継続性を保つためには多くの人々が知識や技術を持ち寄ることが必要です。福祉フォーラムは福祉課題への気づきを提供し、共に考える仲間とのつながりが構築出来る場でありたいと思います。



人を支える思いをかたちにする。

多様な領域で福祉知見を活用した
支援・社会貢献ができる人材を育成。

2016年4月 龍谷大学社会学部現代福祉学科開設

福祉系2学科を統合し、新たに現代福祉学科を開設。
時代のニーズに合わせて、変わります。

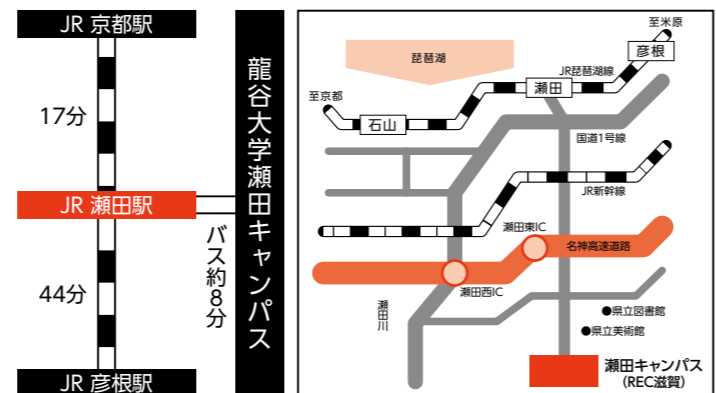
ホームページ <http://www.soc.ryukoku.ac.jp/>

現代福祉学科

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC 滋賀)
〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5
Tel 077-544-7291 Fax 077-543-7771
E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp
ホームページ <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車
帝産バス「龍谷大学」行き(約8分)
名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
文化ゾーン方向へ車で約5分【駐車場有】
※駐車台数に限りがあります。



福祉フォーラム通信



福祉フォーラム2015

『新しい社会共生のあり方を探る ～貧困問題を手がかりに～』

日 時：2015年7月26日(土) 13:30～16:30
会 場：本学大宮キャンパス東麓101教室

講 師：湯浅 誠氏 (社会活動家/法政大学教授)
シンポジスト：梅原 美野氏 (NPO法人山科醍醐こどものひろば)
桐高 とよみ氏 (NPO法人甲賀湖南成年後見センターぱんじー)
山口 浩次氏 (大津市社会福祉協議会)
コーディネーター：筒井のり子 (本学社会学部教授)

7月26日(土)開催の「福祉フォーラム2015」では、『新しい社会共生のあり方を探る～貧困問題を手がかりに～』をテーマに、湯浅 誠氏 (社会活動家/法政大学教授) にご講演いただきました。

つづいて、「現代福祉課題への新しい挑戦～龍谷大学卒業生が語る～」をテーマに、本学卒業生で社会福祉の現場で活躍されておられる、梅原 美野氏、桐高 とよみ氏、山口 浩次氏の3名に登壇いただきシンポジウムを行いました。

今回の「福祉フォーラム2015」では、これからの社会において、「人」に向き合い、関係性を紡ぎ出すソーシャルワーカーの役割がますます重要になること、そして福祉の仕事は必要に応じて新たな仕組みやサービスを「創り出す」仕事であることを、200名を超える参加者とともに確認し合うことができました。

また、本学社会学部では、地域福祉学科と臨床福祉学科の2学科を改組して2016年4月に「現代福祉学科」を開設します。この「現代福祉学科」の教育理念や目的とも合致する内容であり、改めて

福祉専門職養成に対する責任を感じるとともに、共生社会づくりに向けて夢をえがくことができるフォーラムになりました。(文責：筒井のり子)



(参加者の声)

- ★湯浅さんの講演を聴いて、ものの見方の大切さを知ることができました。コンピュータが仕事をうばう技術的傾向を、今度どのようにとらえるべきか考えるきっかけになりました。
- ★講演の中でお話いただいた、「東ロボ(ロボットは東大に入れるか?)」の例を通じて現代社会に求められている力を改めて考えることができました。ロボットと比較をすることで人間社会に福祉が欠かせないことを実感しました。
- ★シンポジウムの内容は、自分がいる場所は福祉や介護の分野ではないが、共感することが多く、非常に刺激を受けました。
- ★さまざまな立場で活躍する現場の方たちのお話が特に興味深かった。それぞれにご自身の答えをつくりながら進んでおられることが伝わりました。
- ★龍谷大学を卒業してご活躍されている方の話を聴いて本当に良かったです。私も今の現場で頑張ろうと改めて思いました。

第13回共生塾 『子ども食堂をやってみよう —地域で作る子どもの居場所—』



日 時：2015年10月3日(土) 10:00～14:00
会 場：本学瀬田キャンパス9号館

第1部 講師：徳丸 ゆき子 氏 (大阪子どもの貧困アクショングループ)
実践報告：谷口 久美子 氏 (NPO法人カズン代表)
山口 浩次 氏 (大津市社会福祉協議会)
調理実践：岡崎 史子 (本学農学部講師)

10月3日(土)、龍谷大学福祉フォーラムでは、第13回共生塾『子ども食堂をやってみよう—地域で作る子どもの居場所—』を本学瀬田学舎9号館で開催しました。

今回の共生塾では、「滋賀県社会福祉協議会 滋賀の縁 創造実践センター」との共催で開催し、子どもの貧困問題に焦点をあて、地域の子もたちを「食」の面から支援する「子ども食堂」について関心を持つ人たちが集まる場と機会を提供することを目指しました。

第1部の講演では、大阪子どもの貧困アクショングループ(CPAO)の徳丸 ゆき子 氏をお招きし、ご講演いただきました。『「助けて」って言うてもええねんで』とは徳丸さんの言葉ですが、子どもの時代に周囲の大人から助けてもらえた実感を持てなかった人は「助け」を求めることも、受け取ることできないことを教えていただきました。子どもたちと一緒に作り、一緒に食べることは、ご飯のつくり方を伝える機会にもなり、信頼できる大人が近くにいることを伝えることにもつながるわけですね。地域社会において何を目的として活動を行うべきか、大事な視点を提供していただきました。

つづいて、実践報告ではNPO法人カズン代表 谷口 久美子 氏より、「子ども食堂」の実践についてご報告いただきました。多くの地域の方に支えられた活動は、会場の方々にも多くの励みとなったことと思います。

第2部では、本学農学部講師 岡崎 史子 氏より、「子ども食堂」など大人数に食事を提供する場面の衛生面、調理方法や栄養面で気をつけるべき点について指導をしていただきました。今回は干し野菜を使ったカレーライス調理しました。なお、干し野菜は子育て支援の活動などをされているNPO法人あめんど から分けていただいたものを利用していただきました。第2部後半では、カレーライスを食べながら歓談・交流したあと、参加者からの質問に講師の先生から答えていただきました。

盛りだくさんの内容で十分に時間が取れなかった面もありますが、参加者の皆さんにとって良い学びと交流の機会になったのなら幸いです。

(文責 猪瀬 優理)



第13回専門セミナー 「滋賀県要保護児童対策地域協議会情報交換会」



日 時：2015年10月23日(金) 14:00～16:00
会 場：本学瀬田キャンパスRECホール

講 師：山田 容 (本学社会学部准教授)
実践報告：大津市子ども家庭相談所
野洲市家庭児童相談室
近藤 真由子 氏 (本学非常勤講師)

10月23日(金)に第13回専門セミナー「滋賀県要保護児童対策地域協議会情報交換会」を本学瀬田キャンパスRECホールで開催しました。

今回の専門セミナーは、滋賀県内各市町の要保護児童対策協議会及び調整機関で実務に携わる方を対象に、それぞれの知見を共有し、実践の質を高め、地域の子育て、子育てを支える基盤を強化することを目的で開催しました。

まず、始めに山田容社会学部准教授が事前アンケートの集計からみた現状の課題整理を行い、調査研究をされている近藤 真由子 氏 (本学非常勤講師) から実態の調査報告がありました。その後、大津市子ども家庭相談所、野洲市家庭児童相談室から事例報告をいただき、報告終了後は、今回専門セミナーに参加された県内14市町間で情報交換会を行い、それぞれが抱える問題点や課題点を共有

しました。

今回の専門セミナーの参加者からは「他の市町の取り組みなど、情報共有が出来て良かった」、「各市町が抱える悩みが聴けて参考になった」、「今回のような機会が増えることにより、各市町の力量の底上げになると感じた」といった感想が寄せられました。

(文責 山田 容)



(参加者の声)

- ★このような機会に参加できて大変勉強になりました。他の市町村がどのようなことに困っているか、実際に聴くのはとてもいいことだなと実感しました。
- ★実務者会議の進め方について、他市町の方法を知ることができ、よかったです。自市でも導入できるか、検討したいと思います。
- ★他市町の取組み、情報共有ができよかったです。このような機会があれば、市町の力量の底上げになると思います。

(参加者の声)

- ★“心をほぐす”ことから始める…印象に残りました。どれだけの積み重ねが必要なのか、想像を越える働きかけをされていることに感心しました。自らの日頃の業務、活動の姿勢を考えなおすことにもなりました。
- ★今の日本で6人に1人が貧困状態にある…なんて…今はストリートチルドレンがいなくてもそのうちでくるかも…なんてショックでした。真剣にとりくんでおられる方々のお話をきくことができよかったです。
- ★今まで活動に関わってききましたが、初めて聴くお話しや活動への思い、そして子どもたちや保護者に対する姿勢についてなど、とてもためになるお話ばかりでした。
- ★CPAOの活動に、大変驚きました。子どもの貧困をなくすため、想像以上の活動をしていて、すばらしいと感じました。すばらしいと感じるだけでおわらせず、私も何かできることから始めたいと強く思いました。

今後のスケジュール

第14回専門セミナー

「支援困難ケースの解決を考える研修会」

開催日：2016年3月19日(土)

場 所：龍谷大学瀬田キャンパスRECホール

共 催：公益社団法人成年後見センター(予定)、リーガルサポート滋賀支部(予定)

協 力：滋賀県社会福祉協議会(予定)、権利擁護センター(予定)

※申込方法等について、研修会参加対象者に個別に御案内させていただきます。

※上記スケジュールは予定であるため、研修タイトル等変更になる可能性があります。